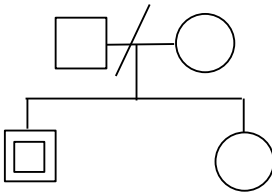


# 相談援助事例

## 無料低額宿泊所 よりそい処「尽心庵」活用例

事例 No. 4	住居確保と失業からの自立支援			地域	Y市→尽心庵				
主な対象者	性別	世帯の特徴	<input type="checkbox"/> 高齢	<input type="checkbox"/> 児童	<input type="checkbox"/> 母子・寡婦	<input type="checkbox"/> 身体障がい	<input type="checkbox"/> 知的障がい		
	男		<input type="checkbox"/> 精神障がい	<input type="checkbox"/> 外国籍	<input type="checkbox"/> ホームレス				
	年代		<input type="checkbox"/> 虐待	<input type="checkbox"/> DV	<input type="checkbox"/> 引きこもり	<input type="checkbox"/> 病気(骨折)	<input type="checkbox"/> アルコール依存		
	30代		<input type="checkbox"/> 認知症						
	世帯 単身		<input type="checkbox"/> 多重債務	<input checked="" type="checkbox"/> 各種滞納	<input checked="" type="checkbox"/> 無収入	<input checked="" type="checkbox"/> 不就労	<input type="checkbox"/> 生活保護		
紹介経路	Y市生活支援相談センター								
相談内容	<p>平成●年12月 会社を退職。社員寮を出て、O市内のマンスリーマンションで生活していたが、平成●年9月末に退職金が底をつき所持金が1,000円となり、マンションを退去し数日間、野宿生活となる。</p> <p>10月5日 元同僚から、Y市役所から住民税滞納しているのではないかと連絡が入っていたと聞く。Y市役所に行き税務課で、事情をはなしたところ、Y市生活支援相談センターを紹介される。一時居場所としてH市のビジネス旅館に宿泊。</p> <p>平成●年10月7日 生活支援相談センターから自立支援に向けて、居場所確保として『尽心庵』へ入所依頼。</p>					<p><b>家族関連図</b></p>  <p>10年ほど誰とも連絡をとっていない。</p>			
対応  (相談・支援の内容)	<p>平成●年10月13日 無料低額宿泊所「尽心庵」に入所。衣類の持ちあわせがなかった為、施設から衣類支援する。社会貢献支援員が同行し、尽心庵へ住所変更を行う。</p> <p>10月14日 口座開設、6月分～9月分携帯電話の滞納金が207,102円ある為電話会社に相談に行く。</p> <p>10月17日 理事長と面接実施。本人は、就労意欲も高く早期の自立を希望しており、法人施設の高齢者施設でアルバイト勤務する事となる。</p> <p>10月19日 就労開始。理事長から食費と宿泊費用は法人で負担するので、頑張って働いてお金を貯めるようにと助言。100万円貯蓄したら、自分で家を借りて自立するという目標をたてる。</p> <p>10月22日 CSWが同行電話会社の滞納金の支払い交渉に着手する。電話会社の代理人との交渉で12月給与で10万円、1月給与で残金を支払う事で了解を得る。その後、Y市役所税務課と話しをして、平成●年度分 住民税26万円を、2月～11月の給与で分割払いする事となる。</p> <p>10月24日 勤務開始から1週間経過。仕事熱心で、業務中にメモをとり尽心庵に戻ってから復習をしている様子。</p>								
社会資源の活用	大阪府社協の生活困窮者レスキュー事業、無料低額宿泊所、法人の高齢者施設								
経済的援助	生活困窮者レスキュー事業で69,102円・・・無料低額宿泊所10/13～11/9の宿泊料28,000円、生活サービス費(食事)38,640円 就労支援(レインスーツ)2,462円衣類支援、自転車貸出、11/10以降の宿泊料、食事は施設で支援。								
連携機関	Y市生活支援相談センター、社会貢献支援員、高齢者施設 就労支援担当、CSWと連携								